

ケアする建築とは？

長澤 泰

(ながさわ・やすし)

東京大学名誉教授・工学院大学名誉教授



建築がケアにどのような影響を与えるのでしょうか。「ケアする建築とは？」というテーマで病院建築を専門にする長澤泰さんに話を伺いました。

社会や他者とのつながりを施設が奪っていないか

ケアする建築とはなにか

このテーマを考えるにあたり、長澤さんは「トータル・インスティテューション」に警鐘を鳴らします。

アーヴィング・ゴッフマンが提示したトータル・インスティテューション (Total Institution) は“全制的施設”と訳されます。人々が社会から遮断され、閉鎖的な環境のもとで管理された生活を送る場を指します。生活の3大要素は睡眠・遊び・仕事ですが、これらの要素をすべて限られた同じ場所で一斉に行うところです。ゴッフマンはこのような環境では、施設の本来果たすべき役割を果たすことが困難になると主張しました。

罪を犯した人に反省と矯正を促す目的で作られている監獄は典型的トータル・インスティテューションです。

病院の病棟や介護施設は、ひょっとして同じような場に

コロナ禍など社会的隔離が必要な状況は当然としても、入院や介護の施設では、利用者の安全を守ることを最優先し、それ以外には目を向けることを避けていることはないでしょうか。結果的に社会から遮断された閉鎖的な環境になっているかもしれません。しかし、「それでは、周辺社会の人々との出会いや交流体験が失われてしまう」と長澤さんは言います。

リスクには常に悪い影響のみをもたらすものと、場合によっては利益をもたらすかもしれない（投機的）リスクがあります。前者を避けることは当然ですが、後者も同様に避けてしまうと、当事者の生活にとっての利益を取り去ることになります。

近代看護の祖であるフローレンス・ナイチンゲールは次のような言葉を残しています。「患者は病院にいる限り医療・看護者に頼り切って、自分自身が回復する過程にあることを自覚しない。従って内科的・外科的治療を終えたら速やかに回復期の環境に移すべきである。」

「患者」、「要介護者」の医療・介護施設での暮らしが長くなると、ケアされる立場が当たり前と思うことになる。そうになると生きる意欲や回復への志向を妨げてしまう、と言えるのかもしれない。

ケアする建築とは、害を与えない建築である

歴史上初めての病院建築家とも言えるフローレンス・ナイチンゲール。ナイチンゲールの著作『病院覚え書』『看護覚え書』に記された内容は「ケアする建築」を考える上で重要な視座を示している、と長澤さんは語ります。

ナイチンゲールは、病気というものは『健康を妨げている条件を除去しようとする自然の働き』であり、病院の医師や看護師は『患者の自然治癒力を最大限に発揮させる手助けをする専門家』だと記しています。

このような見方からは、私のような病院建築家は、「患者の自然治癒力を最大限に発揮させるための環境づくりを総合的視点から手助けをする専門家」と言えるでしょう。

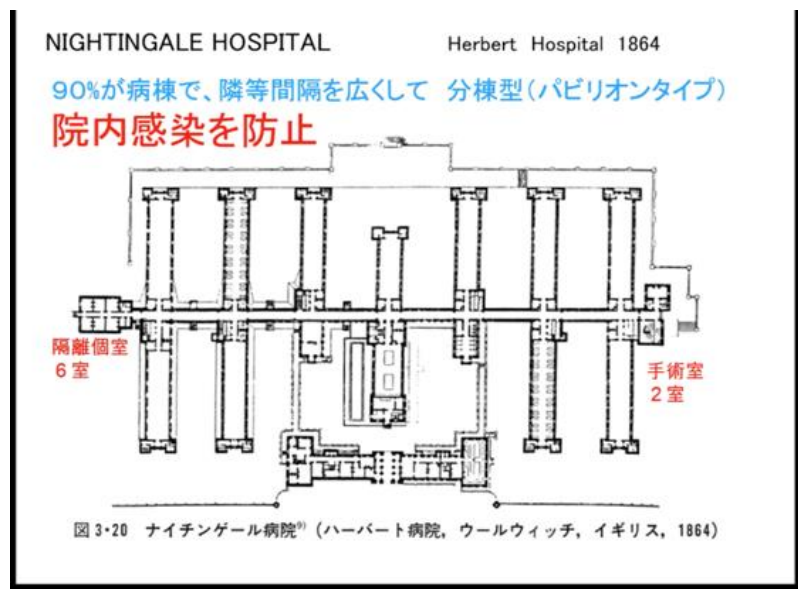
「自然治癒力を最大限に発揮させるための環境づくり。」この視点は、病院や医療従事者のみならず、福祉施設や介護従事者にとっても大切です。利用者自身ではできないことをサポートするだけでなく、「利用者自身が回復しよう、より

よく生きていこうという意欲がわくような環境づくり」の視点をもつこと。そうすることで、良い介護とはなにかを掘り下げることができるのではないのでしょうか。

では自然治癒力が最大限に発揮できる建築とはどのようなものなのか。長澤さんは、さらに続けてナイチンゲールの言葉を引用します。

「病院建築の第一条件は、病人に害を与えないこと」であり、「良い病院とは、見かけが立派なことではなく、患者に常時、新鮮な空気と光、それに伴う適切な室温を供給しうる構造のものである。」これは、クリミア戦争（1853～1856年）での看護師長としての経験を帰国後統計学的に検証して記されたものでした。

近代西洋医学が発展する直前の時代に、ナイチンゲールが提唱した病院は、手術室や精神病患者用の隔離個室も最小限のレベルで備わっていましたが、病棟面積はおよそ全体の90%を占めていました。これらの病棟は高さの2倍以上の隣棟間隔で配置されて、パビリオン型（分棟型）と呼ばれます。ナイチンゲールの指摘通りに自然換気と陽光の取り入れを重視して、1ベッドごとに40立方メートルの気積（空気のかさ）を持たせて、縦型の窓を通して自然換気ができるようになっていました。このようにして機械換気設備や扇風機もない当時の病棟で院内感染を防いでいたのです。



出典:市ヶ谷出版社『建築計画（改訂版）』（長澤泰編著、在塚礼子・西出和彦著）
p. 133

ナイチンゲールは『病院では患者のベッドから窓の外の景色が見えることが重要』とも指摘しています。陽の光が入ってくる瞬間や、夕日の沈む様子がわかることが大切なのです。新鮮な空気と陽光に代表される自然界の動きを感じることで患者の回復を高めると言っています。

最近の研究では、窓から樹木が見える病室とレンガ壁しか見えない病室に入っていた外科患者の10年間にわたるカルテを比較し、前者の方が手術後の退院までの日数が短いと報告されています。自然環境がケア環境に影響することを知っておく方がいいでしょう。

機能的で「住みやすい」空間ではなく、美しく て「住み心地がよい」空間

続けて、長澤さんは「これからは病気を治す場だけではなく、各人の健康を支える場を創り出すことが必要なのでは」と語ります。

私は、30年以上前から病気の館である「病院」だけではなく、健康の館である「健院」の必要性を提唱してきました。現在までは医療や福祉サービスが疾患のみに目を向けて来ましたが、近頃は患者を1つの人格として見直し始めていますが、さらに人間の健康を全体的に扱う場が必要だと思います。

このような「場」では、自然のみならず社会とのつながりが重要です。社会から施設を隔離しないようにして、周辺地域に向けての社会化が必要でしょう。

History of Healing Environment 癒しの環境の変遷

■ Early Centuries - Asylums

中世

僧院



■ 20th Century Hospitals

20世紀

病院



■ 21st Centuries

Healthy Architecture

21世紀

健院



人それぞれの健康を扱える「場」を築いていく。その空間を設計するときに大切な視点を、長澤さんは次のように教えてくれました。

建築家の丹下健三さんは『美しきもののみ機能的である』と述べています。健院は美しい空間であることが条件の一つです。美しさとは、たとえば、優れた音楽や絵画のように人を感動させるもの。美しさを通して初めて、十分に空間の機能を人間に伝えることができると言っているのだと思います。

施設において言えば、機能的で『住みやすい』空間を目指すのではなく、美しく『住み心地がよい』空間であるべきなのではないでしょうか。美しさや心地よさは、ケアを必要とする人だけではなく、そこで働くスタッフにももちろん必要です。劣悪な環境では、いい仕事はできない。働きやすい職場だけではなく、働き心地のいい建築や環境が重要なのではないのでしょうか。

ケアする建築とは？

長澤さんの話を伺いながら、いくつもの場所が思い浮かびました。

たとえば、宮城県仙台市にある社会福祉法人ライフの学校。特別養護老人ホームと地域を隔てる生垣を取り払い、庭をひらくことで、地域で暮らす人々や社会とのつながりを育もうとしています。

医療法人社団オレンジが運営するケアの文化拠点ほっちのロッジ。長野県軽井沢町の林のなかに佇むこの場所は、半屋外の庭をつくり、自然とのつながりを当たり前のように確保しています。

株式会社シルバーウッドが運営するサービス付き高齢者住宅銀木犀。フローリングをはじめ内装には無垢の木を使っており、置いてある家具は、和歌山県田辺市に住む家具職人によって手作りされています。「住みやすい」ではなく、「住み心地がよい」視点を持って建てられた場であると言えるのではないのでしょうか。

日本財団が運営する『みらいの福祉建築プロジェクト』では「建築が変わり、福祉が変わり、まちが変わる。福祉施設が、地域に開かれた魅力ある場所となり、地域でより愛され、多様な人たちとともに地域と福祉のみらいをつくっていく」という言葉が掲げられています。

ここでご紹介したのは、あくまで一部にすぎません。しかし、「ケアする建築」は、各地で育まれつつあります。それぞれの場所で育まれたものが、これからを共に生きる人たち

の健康で文化的な生活を支えていくことでしょう。そう考えると、このテーマからますます目が離せなくなりそうです。



長澤 泰

東京大学名誉教授・工学院大学名誉教授
工学博士。専門は病院建築計画学。

国際病院設備連盟会長，日本医療福祉建築協会会長，国際建築家連盟公衆衛生部会
理事，日本病院管理学会理事、日本ファシリティマネジメント協会理事等を歴任。
世界各国の大学と連携して GUPHA (Global University Programs for Healthcare
Architecture) という研究体制を創設し、2050 年の病院のあり方やヘルスケアの環
境などを世界的な規模で検討。また、コロナ禍を受けて設立したハピネスライフ財
団の理事長として、空港・港湾エリアを活用し国内旅行者・帰省者、訪日外国人な
どへの場を提供し、医療現場の崩壊を防ぐ取り組みを進めている。